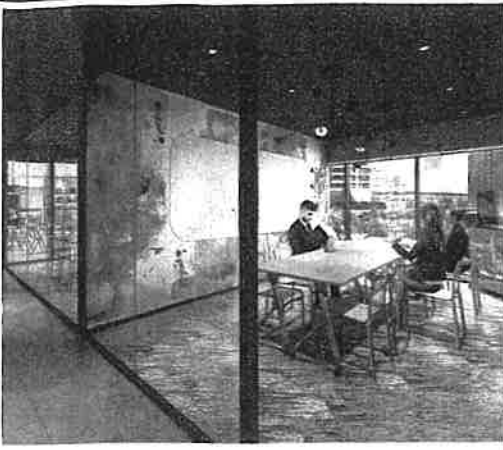


コロナ対応 住まい変化

新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、在宅勤務や感染防止に対応した住宅や設備の供給が相次いでいる。三菱地所などは分譲マンションの一部に、在宅勤務向けに机として使えるカウンターを設置する。日鉄興和不動産は手をかざすだけで操作できる非接触エレベーターを導入する。機能面に力を入れた「コロナ対応物件」へのニーズを取り込む。

三菱地所と近鉄不動産 下旬に始める予定だ。全
は千葉県浦安市で大規模 528戸の25%以上の部
マンションの販売を11月 屋を対象に、リビングや



三井不動産は東京・勝どきの超大型物件の共用部にテレワークスペースを設ける

三菱地所 テレワーク場所確保 日鉄興和 非接触エレベーター

住宅も新常态への対応が進む	
企業名	主な取り組み
三菱地所	分譲マンションの一部の部屋にテレワーク向けカウンター
三井不動産	分譲マンションの共用部にテレワーク用スペース
日鉄興和不動産	分譲マンションに非接触エレベーター
LIXIL	リモコンで鍵の施錠などを操作できるシステム
アキュラホーム	住宅玄関に自動水栓付きの手洗い場

寝室の一角で机として使えるカウンターを設置。在宅勤務を行う住民の利用を想定する。共用部にはコワーキングスペースを設ける。

三井不動産も今秋、東京・勝どきで売り出す2棟の大型分譲マンション(総戸数2786戸)の共有部分にテレワーク用スペースを設ける。広さ

は約300平方メートル個室や会議室も用意する。3LDKや2LDKの購入者には、仕事部屋に間取りを変更できる「書斎部屋プラン」も提案する。

オープンハウスが5月に実施した調査では在宅時間が増すなか、8割弱の人が「住まいの設備や環境をより良くしたい」と思った」と回答した。家

の間取りや設備で求める点については「自宅で仕事や勉強ができる場所」が約8割に上った。

駅の近くなど利便性重視は変わらないものの、多様化するライフスタイルに気を配る動きは強い。東京都在住の28歳男性会社員は「リビングルームにデスクがあるのは好ましい。長時間、自宅で仕事ができる環境は今後必要になりそう」とこうしたタイプのマンションに興味を持つ。

今後テーマになるのが非接触だ。日鉄興和不動産は2021年11月下旬、横浜市に完成予定の新築分譲マンションで非接触エレベーターを導入する。赤外線ビーム式のセンサーを用いた「非接触ボタン」に手をかざす

と、エレベーターを呼んだり行き先階を指定したりできる仕組みだ。利用者は事前にエレベーターの混雑度も把握できる。

LIXILは9月1日、玄関ドアに触れることなくリモコンで鍵の施錠や解錠を操作できるシステムを発売した。新常态(ニューノーマル)の時代を見据え、衛生管理など居住者のニーズに対応した住宅関連商品を充実させていく。

新常态に応じた戸建て住宅を売り出した企業もある。積水化学工業は新型コロナウイルスの感染予防で屋内の小まめな換気が求められる中、窓を開けずにきれいな空気を取り込み、快適な温度を維持する換気・全室空調システムを7月中旬発売の新商品に

標準搭載した。ウイルスを部屋の中に極力持ち込まないよう、玄関近くに手洗いを設置できるようにした。帰宅後すぐに手洗いやうがいができる。清水建設はダイニング部分が必要に応じて備え付けの仕切りで囲い、5畳ほどの個室にできる集合住宅を開発した。不動産会社や社宅を検討する企業に提案していく。

不動産助言会社「トータルブレイン(東京・港)の杉原徳之氏は「新型コロナウイルスで自宅に不満を持つ人は増えており、販売を伸ばす上でテレワークに対応した商品企画や設計変更プランも力金を握る」と指摘する。利便性や価格のほか、今後は安全な暮らしの訴求力も一段と重要になりそうだ。